

## 度量衡について

漢方京口門診療所 山崎正寿

いきなり私事になりますが、昭和 19 年生まれのこの歳で、昨年 11 月より新しく診療所を開設して、漢方診療を行うようになりました。これまで以上に漢方煎じ薬を処方することになり、いろいろと考えることがあります。その中で生薬の分量をどのように定めるかということです。

一応の基準はいままで居りました聖光園細野診療所の分量を踏襲しておりますが、これは浅田流といえますか、新妻家の分量といえますか、独特の分量になります。独自の定まった匙が×一、大一、次一…小一などとあり、例えば小柴胡湯の柴胡は×一とか、黄芩は次一とか定まっており、所謂グラム数ではないのです。むろん患者さんによっては加減があるのですが、元来故細野史郎先生の師匠の新妻先生の処方量は、一般よりかなり少ない量になっています。たとえば呉茱萸湯の呉茱萸の一回の量は小一とされており、一回の量は換算すると 0.5 g 以下となります。一般(経験漢方処方分量集)には 1.0~1.5g です。まして中医学(中医処方解説)での呉茱萸湯の呉茱萸の量は一回 3g となります。

一体これはどういうことであるのか。煎じ薬を処方される方たちはどう考えて対処しておられるのか。大概是習われた師匠の分量を基準にしておられるか、漢方書に記載された量を用いておられるのでしょうか。人によっては 6 倍も量が異なるとなると、たとえ使う生薬の品質の問題を抜きにしても、大いに問題視せざるを得ません。

傷寒論における分量は所謂古来からの度量衡で記載されており、例えば一両が今日の何グラムであるのか、そのことが最も重要な問題になります。日本では故大塚敬節先生がその著書の「傷寒論解説」で、江戸末期の小島学古らの説を正しいと信じ、1 両は 1.3g という説を主張しておられる。岡西為人氏の「本草概説」では 1 両を約 1.4g とされている。ところが今日の中医学では 1 両は 12g であるとか、8g、などという説もきくことがあります。つまり漢方医学における度量衡というものは、さまざまな説が乱立して定まっていないことを意味しています。あるときこの矛盾を来日した中医の人たちに尋ねたことがあります。1 両は 4g、いや 1 両は 8g、いや 1 両は 12g などと言って、確かな根拠も示さずに自分の説が正しいという主張でした。これは駄目だと思い。私なりに調べているうちに、ジョセフ・ニーダムの「中国の科学と文明」という全集の中に、中国古代の度量衡について書かれたものを目にしました。また同じようなことが岡西為人氏の「本草概説」にも書かれていました。

そこには古代中国の度量衡は楽器をもって規準としていたとあり、音調 12 律の基本となる黄鐘管の体積から算出されたものであるとあります。黄鐘管は断面が 9 平方分、長さが 9 寸で、その 90 分の 1 を 1 分と呼び、10 分を 1 寸、10 寸を尺としたそうです。

また黄鐘管の体積は 1 龠(ヤク)と呼ばれ、2 龠が 1 合、10 合が 1 升とされました。そしてこの黄鐘管には黍(キビ)の小さい種子が、1,200 粒(黍)入る。その重さを 12 銖とし、倍の 24 銖が 1 両、16 両が 1 斤と定められました。ところが梁の陶弘景(5~6 世紀、神農本草経編纂)は、漢代の子穀秬黍の制によらず、医

薬は10黍を以て1銖(すなわち120黍が12銖)とし、6銖を1分とし、4分を1両、16両を1斤としていると言ひ、後の唐の孫思邈(千金方を著す)もこれを踏襲して「神農の称」と呼んでいます。すなわち重さは古代中国の規準の10分の1を、医薬における重さの規準としたのです。

このような重さの規準の変遷に疑問を持って、先の小島学古らは実際に日本産の黍の実を測定し、10黍(1銖)は0.01575匁(0.059g)であり、1両(24銖)はすなわち0.37812匁(1.41795g)という結果を出して、陶弘景や孫思邈のいう「神農の称」を認めました。日本人のこのような実証的態度こそ重要であり、わが国で採用されている1両が1.3~1.4gであるという説が根拠のあるものであるということです。その上に立って、それぞれの流派による分量があるわけで、その差たるや大差はないといえます。小島学古に先立つ狩谷掖斎は「本朝度量權衡攷」を著し、古代中国の龐大な文献を引いて、度量衡を考察し、傷寒論における桂枝加大黄湯を実際に作る場合、漢代の分量では煎剤を作ることができず、陶弘景や孫思邈のいう「神農の称」にいう10分の1量で上手く作れることを証明しました。わが国でいう「1両は1.3~1.4g」という説は、大変な研究の上から導き出されたもので、適当に12gとか8gというのとは雲泥の差があります。

ただ杏仁や大棗は何枚とか何個とかあって分量が不確かなように見えますが、これも杏仁十枚は実際に皮を去ったものは8分(3.0g)となります。大棗は「本草序例」では3個を1両とし約1.0gです。

このような度量衡に係わる先人の努力があることをよく知って、1両は12gでなければ効くはずはないというような妄言には耳を貸さない方が良いと思われま